

資料館だより

2022.10.1 No.117(季刊)

編集 国立ハンセン病資料館
発行 公益財団法人笹川保健財団**目次**

- P1 入館者50万人を達成！
- P2 オンラインミュージアムトーク2022のご案内
- P2 職業シリーズ第8弾 吉戒修一氏（元東京地裁判事、元法務省人権擁護局長）の講演会をYouTubeでライブ配信します

- P3 資料の収集 オーストラリアからの資料寄贈
- P3 研究から 戦後ハンセン病文学の息吹を伝える新資料
- P4 「語り部映像」を常時視聴できるようになりました
- P4 お知らせ／利用案内

入館者50万人を達成！

2022年7月7日（木）午後1時40分過ぎ。七夕のこの日に、当館の累計来館者が、1993年の高松宮記念ハンセン病資料館開館から数えて、50万人を達成いたしました。50万人達成を記念して、50万人目の来館者の方へ内田博文館長より認定証を、全国ハンセン病療養所入所者協議会藤崎睦安事務局長より花束を贈呈しました。

記念すべき50万人目の来館者となったお客様は、東京都中野区からお越しくださった小林 明子さんでした。この日初めてのご来館だったという小林さん。当館職員からの突然のお声がけに、はじめは大変驚かれていましたが、集まったマスコミ各社からのインタビューにも快く答えてくださいました。以下小林さんからのメッセージです。

「偶然ではありますが、50万人目という貴重な記念をいただき光榮です。ここで知ったことを見たことを周りの家族や友人に伝えたいと思います。これからもより多くの人達が来館されることを願っています。」

また全国ハンセン病療養所入所者協議会森和男会長、ハンセ

ン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会豊山
たてやま
いさお
勲 事務局長からも、お祝いのメッセージをいただきました。メッセージは、当館公式ホームページと館内ギャラリーにセレモニーの写真とともに、展示させていただきました。

次は累計来館者数100万人をめざし、ハンセン病に対する差別解消に向け、不断の努力を重ねて参ります。

(千代倉裕子)



オンラインミュージアム トーク2022のご案内

国立ハンセン病資料館が開催する「オンラインミュージアムトーク」は当館の学芸員、他園の社会交流会館等の学芸員を講師として、様々な切り口でハンセン病問題にアプローチする連続セミナーです。

本年の6月に実施した『「生活のデザイン」をめぐって』は、当館としては初めてのナイトミュージアム形式で、企画展「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」に関する解説を、担当学芸員2名による対談形式でお届けしました。

続く8月には、長島愛生園歴史館の木下 浩学芸員による、「長島愛生園をめぐる多面的な聞き取り調査」を配信しました。木下学芸員は療養所における高齢化・少人数化が進む中、テーマを絞った再度の聞き取り、今まで話者となっていない入所者への聞き取り、証言を裏づける資料の収集、合わせて、「入所者が記憶していない部分を補うことができる」療養所の職員への聞き取りなど、新たに進められている取り組みについて報告しました。

また、来る11月19日（土）には松丘保養園社会交流会館の澤田大介学芸員による「松丘保養園のあゆみ」を開催します。青森県青森市にある国立療養所松丘保養園は、1909年に前身の第二区療養所北部保養院が設立されて今年で創立113年目を数えます。澤田学芸員は、園内の様子や四季の移ろいと合わせて、入所者の生活や文芸活動について紹介する予定です。

定員100名の事前申込み制となります。詳しくは当館の公式ホームページを御覧ください。皆さまのご参加をお待ちしています。

(吉國元)

【申込用URL】

<https://www.nhdm.jp/events/list/4512/>



国立療養所松丘保養園の紅葉と雪



職業シリーズ第8弾 吉戒修一氏（元東京地裁判事、 元法務省人権擁護局長）の講演会を YouTubeでライブ配信します



2022年10月8日（土）14時から15時30分までの予定で、吉戒修一氏講演会「ハンセン病問題を考え—裁判と人権擁護の観点から—」をYouTubeライブ配信で開催します。ハンセン病問題に携わるさまざまな職業の方を講師にお招きする「職業シリーズ」の8回目になります。

講師の吉戒氏は東京地裁在任中にハンセン病国賠訴訟東日本訴訟の裁判長をつとめ、また法務省人権擁護局長として黒川温泉ホテル宿泊拒否事件（2003年、菊池恵楓園入所者がホテルの宿泊を拒否された事件）の対応にあたるなど、日本のハンセン病問題の転換期において、法曹として重要な役割を担った方です。現在は弁護士として活動されています。

本講演会では、法曹を志したきっかけ、ハンセン病国賠訴訟や黒川温泉ホテル宿泊拒否事件にどのような思いで取り組んだのか、ハンセン病回復者との交流、仕事のやりがいなどについてお話ししていただいたうえで、ハンセン病問題に対する司法の責任と役割についても触れていただきます。

ご視聴は下記のURLまたはQRコードから配信ページにアクセスしてください。事前申し込みは必要ありません。当日、会場での席のご用意はありませんのでご注意ください。

(大高俊一郎)

【視聴用URL】

<https://youtu.be/c9-seVStr24>



資料の収集

オーストラリアからの資料寄贈

当館では、ハンセン病問題を考える上で重要な資料を収集・保存しています。収集する資料は日本国内に限らず、海外における関連資料も収集しています。

このたび、オーストラリアのクイーンズランド大学の講師であったジョー・ロバートソン氏より、多数の文書資料が当館に寄贈されました。

ロバートソン氏は、国際ハンセン病学会のハンセン病歴史保存プロジェクトに参加し、世界各国におけるハンセン病問題に関する資料のデータベースを作成することを目的に大規模な調査を行うなど、ハンセン病問題に関する論文も多数発表している研究者です。

今回寄贈された資料は、1948年から2005年における世界のハンセン病対策について書かれたロバートソン氏の著書 “The International Campaign Against Leprosy 1948-2005” (2021年刊行) の執筆にあたって収集されたものです。本書では、20世紀後半に人類がどのようにハンセン病に対処してきたかを検証しています。

ロバートソン氏によれば、クイーンズランド大学を退職するにあたり、これらの資料の寄贈先を検討したところ、世界のハンセン病問題に関する資料館のなかでも、国立である日本の資料館であれば、より長く資料が後世に残るであろうと判断して寄贈先に選んだとのことでした。

今回の寄贈資料は海外から船便で運ばれ、港に到着後は、通関の手続きのために東京税関の出張所に当館職員が出向き、申請や税関職員による荷物のチェックなどに立ち合いました。初めての経験で右往左往しつつも、無事に資料を受け入れることができました。今後、資料整理を経て収蔵する予定です。

(橋本彩香)



寄贈資料の整理の様子

研究から

戦後ハンセン病文学の息吹を伝える新資料



高知県立文学館。貴重な資料を借用することができた。

ハンセン病療養所の文芸活動について調査研究を進めています。ハンセン病文学というと戦前の北條民雄や明石海人などが有名ですが、戦後も各療養所に文芸サークルが花開き、多くの入所者が活発に作品を発表しました。

ところが、多くの場合、生原稿は失われており、現存するものはほんのわずかです。

今回、調査の過程で、高知県立文学館に、高知県出身の詩人・大江満雄（1906-1991年）宛の書簡が遺族から寄贈されており、その中に、全国のハンセン病療養所入所者からの書簡が多数所蔵されていることが判明しました。

大江満雄は1950年代から1990年代にかけて、およそ40年間にわたってハンセン病療養所の文芸活動を支援しました。全国8療養所の合同詩集『いのちの芽』(三一書房、1953年)の編集・解説をはじめ、栗生楽泉園や長島愛生園で詩の選者を務めています。

高知県立文学館に所蔵されている療養所入所者からの書簡は、20人4団体の123通にのぼります。その日付は1953年から1990年までにわたっており、約40年間、大江満雄が亡くなる直前まで切れ目なく親交が続いていたことがうかがえます。

このほど、高知県立文学館の協力を得て、9人1団体の80通の書簡を借用することができました。志樹逸馬（長島愛生園）、谷雄二（栗生楽泉園）、島比呂志（星塚敬愛園）、国本衛（多磨全生園）といった戦後を代表するハンセン病詩人たちの肉筆の書簡で、個性的な筆跡が伝わる貴重な資料です。新たな文学を共につくろうと語り合う内容も興味深く、さらに内容を精査し、今後の展示につなげていきます。

(木村哲也)

「語り部映像」を常時視聴できるようになりました

当館映像ホールでは、開館時間中にガイダンス映像を常時上映しておりますが、この度当館の語り部でいらっしゃった、ハンセン病回復者の佐川修さんと平沢保治さんの「語り部映像」を上映していくことになりました。上映スケジュールは下記の通りとなります。ぜひ多くの方に佐川さんと平沢さんの語りをご覧いただけたらと願っております。

1 ガイダンス上映中 映像ホール

09:30	回復者の語り (平沢さん)
10:30	証言・歴史解説
11:10	入門編解説
11:30	回復者の語り (佐川さん)
12:30	証言・歴史解説
13:10	入門編解説
13:30	回復者の語り (平沢さん)
14:30	証言・歴史解説
15:10	入門編解説
15:30	回復者の語り (佐川さん)

**出入り自由です
ぜひお立ち寄りください!**

■ ホール内での飲食はご遠慮ください。
■ 会場内の録音・録画・撮影はご遠慮ください。
■ その他、他のお客様のご迷惑になるような行為はご遠慮ください。
■ 財重品などお荷物に十分ご注意ください。会場内での紛失、盗難等について当館は責任を負いません。

国立ハンセン病資料館 2022.08

なお、遠方で当館に来ることが難しい方は、公式YouTubeチャンネルにおいても、佐川さんと平沢さんの語りをご覧いただけます。

詳しくは、[ハンセン病資料館 YouTube]で検索をお願いいたします。

なお、公式YouTubeチャンネルには、語り部映像の他に、過去のイベントや講演会のアーカイブ映像も多数ございますので、この機会にぜひご視聴いただけましたら幸いです。

(及川由紀子)

YouTubeチャンネル



お知らせ

■施設貸し出しのご案内

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設貸し出しを休止しておりましたが、当館1階ギャラリーのみ貸し出しを再開いたしました。

ハンセン病問題の啓発普及を進める趣旨であれば、無料でご利用いただけます。ぜひご利用ください。お申し込みは、当館ホームページより受け付けております。



利用案内

■開館時間 9:30~16:30

■団体で学習する (10名様~70名様)

10名様以上でご来館の団体向けに、ガイダンス映像視聴、語り部講演映像視聴、見学前ガイダンス(約15分)、展示自由見学などから構成される団体見学プログラムをご用意しております。

■オンライン団体見学プログラム (10名様以上)

通信アプリ【Zoomミーティング/Google Meet】などを使用した、10名様以上の団体でご利用いただける、オンラインのプログラムをご用意しております。ハンセン病問題に関するガイダンス映像や語り部講演映像の視聴、展示室からのライブによる資料紹介と質疑応答などを組み合わせご利用いただけます。

団体見学プログラムお問合せ先: group@nhdm.jp

■休館日 毎週月曜日 (祝日の場合は開館)

年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日

■入館 無料

■交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口より
西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分
(「ハンセン病資料館」下車)
- 西武新宿線 久米川駅北口より
西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分
(「ハンセン病資料館」下車)
- J R 武蔵野線 新秋津駅より
徒歩約20分

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13

TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981

URL <https://www.nhdm.jp/>